



藤本 浄孝 議員

新型コロナウイルス感染症に関する支援について

問 特別定額給付金は全ての住民に支給されるが申請もれが生じることが想定される。該当住民の申請についてどのように取り組むかを伺う。

答 また、規定では各自治体の郵送申請受付開始から3カ月とあるが、夏期休暇に帰省し親族の申請を行う方もおり、休暇明け数日の猶予期間を設けることが必要かと考えるが方針を伺う。

問 本町は8月13日が締切日であり、引き続き周知を図っていく。

問 町の一般財源より支援策が講じられるが支給の経緯や地域経済の活性化へのお願い等を

提案していくべきであると考え。例えば「子育て応援給付金」であれば決定通知の案内に町の教育方針や取り組み、登校自粛による心のケア等を記載した書面を封入することも可能かと考える。支援と共に提案を行う機会であると考えるが今後の取り組みを伺う。

答 目的を記載したチラシやホームページ記載、ケアについては町独自で学習支援員を置く。

問 高齢者の皆さんが楽しみにされている行事も感染症防止の観点から中止を余儀なくされ、楽しみが減っていると言う声が多い。また、移動が困難な方はマスクや消毒液の購入にも苦慮しておられる。高齢者も我慢を強いられる状況である。高齢者に合わせた助成等、支援の取り組みが必要かと考えるが今後の取り組みを伺う。

答 6月1日より段階的に町主催の行事は開催し、サロンや生涯学習等は人数制限や感染症予防を行い開催している。高齢者に寄り添い支援をしていく。



平野 和生 議員

小・中学校の給食費、完全無償化を!

問 昨年10月の消費税増税にともない、3月議会において、昨年度より5,200万円増額の地方消費税収入予算が組まれた。これを財源に充てて、来年1月以降も小中学生の給食費を完全無料とすべきと考えるが教育委員会の考えを伺う。

答 教育委員会としては、無償化を含め、無償化のみならず、所得を考慮した給食費の減額などしっかりと検討したいと考えている。

浮島に「ターン、Uターン者のための住宅を!」

問 昨年度、町は小松開作地

区に若者定住促進住宅を4戸建て、本年度も2億1,300万円余りの予算を編成し新たな住宅を建設することとしている。浮島では、十数年前から「ターン、Uターン」の若者が増え始め、島もすぐく元気があり続けている。しかしながら、その中で唯一足りないものが住宅であり、一昨年、借りることのできる家屋がないということで、若い家族が島を離れて行った。

海底送水管布設事業も、順調に進んでおり、やる気のある若者のため、浮島に若者定住促進住宅の建設をお願いする。

答 浮島地区等においてのイワシ網を代表した漁法は、本町における重要な文化と言えるもので、それらの産業を担う若者世代を守って行くことは、浮島、さらには周防大島全体の発展へ結びつくものと考えている。

町としては、土地の確保や建築費用がかかるので関係各部と調整し建築に適した土地の選定から調査してまいりたいと考えている。